

【口頭発表1】

研究の基礎「鹿角の様々な歴史」

代表者 1B 花 田 温
指導者 藤 島 知 歩

はじめに

今年度、1年生は基礎領域として「地域について知る」をテーマに歴史・畜産・観光3つの分野に分かれて研究を進めることとした。地域出身の偉人の功績を学ぶため、5月26日には鹿角市先人顕彰館を訪れ、見学した。ここは鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の収集、保存、事蹟の調査研修とその公開展示を行っている。また、6月2日には毛馬内こもせ商店街協同組合理事長である馬淵大三氏に鹿角の歴史について講演いただいた。この活動を通し、特に歴史分野に関心を持った12名が①鹿角ができるまでの歴史について、②鹿角の偉人について、③鹿角の神社についての3班に分かれ、調査・研究を行うことになった。



I テーマ設定の理由

先人顕彰館の見学や馬淵氏の講演から、自分たちが暮らす鹿角市の成り立ちについて興味を持った。また、世界的な東洋史家といわれる「内藤湖南」、ヒメマスの養殖に成功し、十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」の両氏は、鹿角の先人の中でも有名であるが、どのような人物でどのような業績を残したのかを知らない人も多いと考えた。

さらに鹿角市十和田には神社が多いことを知り、成り立ちやどんな神様が祀られているかを調べ、皆に知ってほしいと思い、この3つのテーマを設定した。

II 実施計画

- 1 グループ分け・研究テーマ決定
…9月29日
- 2 発表準備
…10～12月
- 3 KeyNoteの使い方について…10月13日

III 調査・研究内容

①鹿角ができるまでの歴史について

○鹿角の起源・「上津野村」

9世紀後半、「上津野（かづの）村」は秋田城下の村として存在していたが、それ以前の記録はない。また、14世紀初頭、鎌倉時代末期に「鹿角郡」として歴史に登場するまでの状況は未だに明らかになっていない。つまり、鎌倉時代末期までの「かづの」地域については明らかになっていないことが多い。

○なぜ「鹿角」か

鹿角市は「鹿」に「角」と書いて「かづの」と読む。なぜこのように表すようになったかと言うと、米代川支流の形が上から見た時に鹿の角のような形に見えたからという説が有力だ。



○上津野

鹿角は昔、「上津野」と表記していた。「上津」とは上方（上位・川上・奥）のことを意味しているが、「野」についての資料は見つけることができなかった。「米代川の川上にある毛人の国（蝦夷を首長とする国）」という意味合いで名づけられたことが推察される。

○現在に至るまで

江戸時代までは九戸県、八戸県などを経て南部盛岡藩が統治していたが、1871年に秋田県となった。

1972年4月1日、鹿角郡の花輪町・十和田町・尾去沢町・八幡平村の4町村が合併し、現在の鹿角市となった。



②鹿角の偉人について

○和井内貞行について

1858年3月29日

陸奥国鹿角郡生まれ



- 1875年 毛馬内学校に助教員として採用される
- 1881年 工部省小坂鉦山寮に吏員として採用され、小坂鉦山に赴任
鉦山勤務の傍ら、十和田湖養殖事業に着手
- 1903年 ヒメマスの稚魚を放流
失敗が続く…
- 1905年 ヒメマスが成魚となって回帰
《ヒメマス養殖事業に成功》
- 1922年5月16日
風邪をこじらせ、死去

○ヒメマスと十和田湖について
アイヌ語で「カパチェッポ」と呼ばれる。
現在、十和田湖はヒメマスの釣りスポットとして有名だ。

○内藤湖南について

1866年8月27日

毛馬内生まれ

- ・東洋史学を研究。
新聞記者となり、中国問題の第一人者として活躍。
その結果、訪中すること6回。羅振玉、王国維ら清末の学者や熊希齡ら民国の政治家と交わり、のちに京大教授となる。
- ・教授になった後、狩野君山と共に東洋史の「京都学派」を育て、中国学や東洋史学の権威者となる。湖南が唱えた理論は「内藤史学」と呼ばれる。
- ・著書：『支那絵画史』『日本文化史研究』等



③鹿角の神社について

○月山神社

- ・坂上田村麻呂が蝦夷平定を祈願したと伝えられる。
- ・1735年までに4度の山火事に遭い、現存する本殿は1740年に建立されたものである。
- ・1925年 鹿角で唯一の県社となる。



○稲荷神社（毛馬内）

- ・鹿角にはお稲荷様を祀る神社が多くあるが、その一つで、毛馬内神社とは別の神社である。
- ・毛馬内保育園の近くに鎮座



している。

○稲荷神社（錦木）

- ・1684年
錦木村古川に建立された。
- 1873年
村社（旧制度の社格の一つ。地方の氏神として仰がれる社のこと。）となる。
- ・1911年 近村の聚楽（人が集まる所）の稲荷神社、天照御祖神社、駒形神社の3無格社と合わさり、現在の稲荷神社になった。



○稲荷神社とは

一般的に「稲荷大神」または「稲荷神」を主祭神として祀っている神社のこと。諸説あるが、「稲成り」や「稲を荷う」などの意味が由来しているとも言われている。稲荷神は稲を象徴する穀霊神、農業と深く関係する農耕神とされる。

○本宮神社

- ・成立年代不詳
社伝によると…

1659年に中通り四々村一同で大己貴命（おおなむちのみこと）を祭神とする神社を建立した。

※大己貴命：大国主命のこと。出雲大社の祭神。医療・まじないの法を定めた神とされる。

別伝によると…

阿部貞任の一門、本宮徳次郎が薬師堂を建立したのが創祀とも。

※薬師堂：人々の病患を救うとともに悟りに導くことを誓った仏を安置する堂のこと。



Ⅳ おわりに

自分たちが今まで知らなかった鹿角の成り立ちや魅力について、認識を新たにすることができた。しかし、見知って終わりにするのではなく、今回調べ、研究したことをどう発信していくかが次の課題である。

また、今回の発表に向けてはKey Noteというスマートフォンのアプリを用いてスライドを作成した。対応機種が限られていることや、機能をうまく使いこなせなかったこともあり、作成に苦慮する場面もあった。

来年度は今回知ったことや反省を生かし、情報を如何にわかりやすく発信していくかを念頭に置いて活動に取り組んでいきたい。